



ふくだい専門看護師・認定看護師たより



No12 令和7年4月発行

発行：福井大学医学部附属病院

専門・認定看護師連絡会 広報担当

福井大学医学部附属病院看護部には、6名の専門看護師と32名の認定看護師（ダブルライセンス取得者2名含む）が在籍しています
今回は4名の専門看護師、認定看護師の記事を紹介します！



脳卒中リハビリテーション看護認定看護師： 藤田 久美

第51回 日本脳神経看護学会学術集会に参加しました。

3年目研修での看護実践を症例報告としてまとめ、学会で発表することができました。

忙しい日々の業務の間に、ポスターを仕上げ、発表まで行ったスタッフはとてもキラキラしていました。『大変だったけど、頑張ったよかった』とうれしい感想も頂きました。看護を形にする事が素敵なことだと改めて思いました。学会参加+同期での旅行を楽しんで、ますます病棟を盛り上げていく存在になっています



小児救急看護認定看護師： 山根 恵

小児救急看護認定看護師とは？

子どもの権利と尊厳を守りながら、救急場面だけでなく全ての場における子どもへの看護実践、家族に対する育児支援や虐待や事故予防の啓発活動等も行っています。



虐待研修プログラムBEAMS Stage3に参加してきました！



BEAMSとは、日本子ども虐待医学会が医療従事者向けに開発した虐待対応プログラムです。

Stage1～3まであり、虐待に気づくきっかけや虐待された子どもやその保護者への対応方法を学ぶことができます。また、Stage3では座学だけでなくロールプレイやディスカッションを通してあらゆる虐待対応を学ぶことができます。Stage1、2は普段子どもに関わりのある方や虐待防止に関心のある方であればどなたでも参加できます。一緒に虐待対応を学びませんか？

がん性疼痛看護認定看護師：笹川良明



どんな分野？

主なスキルとしては・・・

- 痛みの総合的な評価と個別的ケア
- 薬剤の適切な使用および疼痛緩和 です

* 2020年からは「緩和ケア」に統合されています

がんによる痛みは、診断時には3割の方が経験されています。また、身体的な症状だけではなく、病気や治療、日常生活に対しての不安や家族や仕事などに対しての心配など、様々な苦痛も生じます。これらの痛みを緩和する事は、自分らしい日常生活を送るためにはとても重要な事です。日常生活の支援が役割の看護師が疼痛の緩和に関わる事は、患者さんの生活の質の向上にとっても重要です。

人間の生と死についての関わりも少なくない分野ですが、その関わりから看護師として、また人としてさらに学ばせていただく機会を頂いていると思います。患者さんと共に苦痛に向き合い、その苦痛の緩和のお手伝い出来る様な看護を目指していきます。

がん看護専門看護師：牧野路子

□ がん看護専門看護師とは？

当院では、がん患者さんの診断期-治療期-終末期に関わる機会が多く、患者さんとご家族がその都度生活を再構築していくためのサポートを行っています。

□ どんな活動をしているの？

現在は主に緩和ケアチームとして院内をラウンドしています。疼痛や気持ちの辛さ等の身体的、精神的、社会的、スピリチュアルな辛さについて多職種チームでサポートしています。緩和ケアはがんと診断された時から治療と並行して行うとより良いと言われています。いつでも気軽にお声かけ下さい。

□ 臨床におけるジレンマへの支援

現場の様々な倫理的ジレンマについて各部署の倫理カンファレンスに参加しています。院内の専門看護師と問題解決の糸口を探り、明日からのケアを一緒に考えましょう。

